〔「座談会」での結論 ☛ " 読者に考えていただきたいポイント"&ヒント〕

〝担い合う〟とは？ 語り合い、考えを共にし、実行していくこと。その「意義と難しさ」

Ⅰ. 教会は世話になっているからお返しする奉仕の場。

十年前、世界の宗教家が集まって会議を重ね、得た結論は、皆「信じる心」を持っているということだった。将来「信じる心」と「感謝する心」が「信仰の二大柱になる時代が来ると私は思っている。

毎朝5時から一人で教会の掃除をしている高齢の女性がおられる。毎朝ミサにも与られる。教会は奉仕の場だと思う。

昔は、委員会制度がなくても、教会で苦労を厭わず働く人がいた。**教会に世話になっているからお返ししなければ、という気持ち**が強かった。

Ⅱ.支え合い、困難を乗り越えて仕事を果たす人々がいる。

香里教会では昔も今も**日曜学校と侍者の育成**を根気よくやり続ける人達がいる。**九〇歳を超えても、喜びを持って子どもたちに接し、**指導している方々がおられる。

共に荷を背負い、協力して困難を乗り越え、実が結んで喜びを分ち合う。そこで初めて強い絆が生まれる。言うは簡単だが、いろいろの困難が伴う。

「担い合う」ための前提は〝**責任**〟を引き受けること。人々が「担い合う」ことで心が通じ合い、教会全体がより強く、共感的で、持続可能な組織になる。互いに荷を「**担い合う**」ことは、仕事の達成、人間関係において重要な役割を担っている。

Ⅲ. 教会の仕事は「奉仕」であってボランティアではない！

「担い合う」とは一人でなく**複数で責任を持つ**こと。実は、これがムツカシイ。教会の仕事は「奉仕」であり、それも互いに担い合ってこそ、はじめて実を結ぶ仕事に満ちている。

教会の仕事は「奉仕」であり、ボランティアではない。責任を引き受ける「奉仕グループ」の活用は、今後の香里教会の活性化を考える上でますます重要なポイントになる。

林神父 みなさん仰る通り、教会の活動はすべて奉仕なんです。最後の晩餐の前にイエスが弟子たちの足を洗う。洗い終わった後、あなた方も互いに足を洗いなさいと言われた。これが教会という組織の基本なんです。**教会とは互いに足を洗い合う組織**なんです。つまり互いに「仕え合う」、手を取り合って足らざるを補い合う、キリストを真ん中にしての奉仕の組織なんです。大事なことは〝**ともに歩む**〟ということ、**これ自体が目的**なんです。〝ともに歩む〟が何か結果を出すための方法なのではなく、〝**ともに歩む**〟ことそのことが目的であり、結果は問わないんです。たとえばバザーをするにしても、バザーの売り上げを目的にしたら、それは教会では無くなる。バザーの目的は、あくまでも「一つになる」こと、〝ともに歩むこと〟であって、結果は問わないんです。

パウロがコリントの信徒への手紙で言っているように、〝ともに歩む〟ということが一番大事なんです。